

ブラジル国

雇用農業移住者の独立概要

サンパウロ市近郊	花卉 (バラ、電照菊、カーネーション、鉢物)
	ジャガイモ 蔬菜
ミナス・ジェライス州 (セラード)	雑作 (コーヒー、大豆、小麦の混作)
マツト・グロッソ州	牧畜

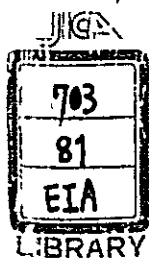


(レタスの収穫・出荷)

1980・1

国際協力事業団

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY



国際協力事業団

受入 月日 '84. 4. 10	703
登録No. 03094	81
	EIA

1 ブラジル農業の特色

ブラジルは広大な国土とその環境から光と水に恵まれており世界に残された農産物供給地として脚光をあびています。ブラジル農業の特色を一口に言えば次のとおりです。

(1) 利 点

ア、国土面積約8億5千万ヘクタールのうち一応農用地とみなされている面積は約3億ヘクタールと云われていますが、この中には約42%を占める粗放牧場や遊休地、あるいは将来利用されるであろう原始林を含んでおり、実際に農業に利用されている土地は3千5百万ヘクタール程度にすぎないと推定されます。しかも現在脚光をあびているセラード地帯はこの他に1億8千万ヘクタール(うち、開発可能約5千万ヘクタール)もあることを考え合せれば如何に開発可能な農用地が残されているかが理解出来るでしょう。

又、ブラジルの国土は東西および南北に夫々約5,000kmにおよんでおり北は北緯5度から南は南緯33度まで熱帯、亜熱帯、温帯にまたがるほど広大であり、気候の多様さに従って多種の作物が栽培可能です。

イ、ブラジルも近年都市部への人口集中化が激しいですが、それでも1977年度の統計によれば39%約4千3百万人が農村地帯に住んでおり、また業種別就労人口も36%が農業に従事しています。労働力は豊富であり、比較的勤勉従順といえます。

ウ、農産物の輸出高は総額の60%にも達し、国際収支上大きなウェイトを占めており、農産物の生産と輸出拡大は今後とも重要国策として優先しています。そのあらわれとして、1979年に発足した新政権も農業の振興を最重点政策としています。

エ、農業災害としては早魃と降霜(南ブラジル)が代表的で台風、洪水などの災害は日本に比べて極めて少ないです。

(2) 欠 点

ア、農用資材特に肥料、農薬、機械類が他の農業先進国に比べ国産化率が低く割高です。

イ、農業保護政策はいまだ不十分で農業災害保償や価格支持制度なども弱く、また農業試験研究機関も未整備です。

ウ、農産物の中には品質が不統一で、生産量も一定しないため、国際的な信用がいまだ確立されていないものが多く輸出面での競争力に弱いといえます。

エ、輸送機関、貯蔵設備が完備していないためロスが多くコスト高です。

オ、農業の基盤整備が不十分であり、かつ、単位面積当たり収益が少なく生産性が低いといえます。

カ、大土地私有制下であり中堅自営農業者層が少なく、かつ農地の有効利用度も低いのが実情です。

しかしながら、これら欠点とみなされるものはいずれも将来改善が可能なものであり、ブラジル農業の将来性は高く、米国に次ぐ農業国としての発展の可能性は大きいといえます。

JICA LIBRARY



1025323[5]

す。いずれにせよ日本に比べ可能性を内蔵するブラジルの農業は極めて魅力的であるといえます。

2. 日系人がブラジル農業開発に果たす役割と貢献

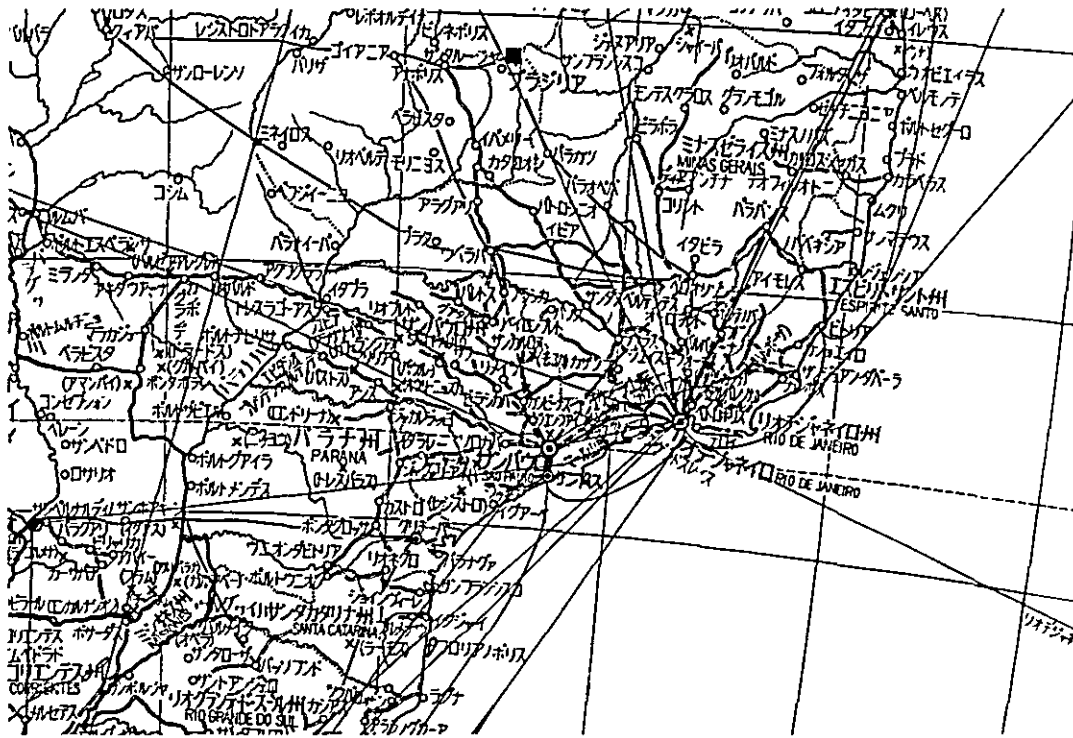
1908年以来第二次世界大戦前に約18万人戦後約5万人の日本人がブラジルに移住しました。その大半が農業移住者でしたが、現在の日系農家戸数は約3万6千戸と推定されます。他国からの移住者に比べて日本人農業者は自営農業者をめざして努力し、その農業経営の中から独特の新しいブラジル農業のあり方を樹立したのです。例えば馬鈴薯生産に始まり米作りや蔬菜を中心に新しい作物を次々と導入改良して続いて茶、養蚕、養鶏、果樹、花卉等へと発展し都市近郊における集約的施設園芸農業を確立した功績は大きいです。

旧ブラジル農業は、コーヒー、砂糖に代表される大農方式か、またはインディオ農業の流れを汲む零細農業の2種に大別されていたが、日本人移住者は、家族中心の中堅自営農業経営という第三の新しい形態を確立したのです。原始林を伐採し、自然の地力を掠奪して開拓前線を広げて行くことしか考えなかったブラジルの焼畑式掠奪農業の中で小面積で高度の収量をあげる集約的施設および施肥農業を開発したのは、日本人移住者にほかならぬことは高く評価されています。

また、最近のセラード地帯開発の例のごとく、この広大な未利用地の開発に対する日系人への期待度も極めて大きいです。

一方コチア産組、南伯中央会産組のごとき農業協同組合組織をつくりその組織活動を通じての独自の生産、加工、流通機構の確立や生産団地構想を実現したこと等、ブラジルの農業面で先駆的かつ指導的な役割を果たしています。

3. 南ブラジルへの農業移住の促進



戦前の移住者一世の老令化に伴い日系農業者の主力は二、三世に移り一部は戦後の農業移住者が占めていますが、農業後継者の不足は日系コロニアにおいても大きな問題であり、新しい農業移住者に対する期待は大きいです。

一方南ブラジルへの農業移住は、土地、資材の高騰からあたかも新移住者の独立は極めて困難であるかのごとく一部に伝えられており、これが誇大に受取られているきらいがありますが、事実は消費人口1,000万人を有する大サンパウロ圏を始め、中型の地方都市（人口30万人以上）近郊における集約的農業は、何と云っても魅力のあるものです。土地代は高くとも社会環境や交通手段に恵まれ小面積で営農が成立つ利点を考えると独立は決して困難ではありません。

また都市と僻地の中間地帯での養鶏、養豚、果樹栽培などの中規模の混合経営や、あるいは奥地でのコーヒー、雑作などの大規模栽培、牧畜等でも独立は可能です。また作目別規模別、地域性によっては独立形態は従来の家族自営型の他に共同組織型や企業型の経営方式も考えられます。

この資料は、日本国内における狭い農業環境から脱してブラジルにおいて国際競争力のある

近代的な農業を志す農業青年に対し希望実現のための場と機会を具体的に提供するために、作成したものです。

なお、この資料に使用されている語句のうち、重要と思われる語句についての意義を次の通り補足説明しておきます。

雇用期間 原則としては2年間ですが、作目・営農形態等により2～4年と期間に幅があります。この雇用期間は独立へのためのあくまでも研修期間であり、ブラジル語（ポルトガル語）、ブラジルの習慣・風俗、栽培・管理技術、経営技術等を仕事を通して習得するためです。

最低賃金 ブラジルでは各州ごとに1ヶ月の給与の最低賃金額が決められており、この額は物価上昇率等を勘案のうえ、毎年5月に改訂されます。

雇用期間中の給与 雇用契約締結時から6ヶ月間は、最低賃金の1.5倍、6ヶ月過ぎた時点でパトロン（雇用主）との話し合いにより調整されます。（最低賃金の1.5倍を下回ることはありません）。

雇用期間中の支出 雇用期間中の食・住についてはパトロンが手配することになっていますが、食費ならびに住居に係わる水光熱料については、生活費の名目で実費額をパトロンに支払います。その額は最低賃金の4.5倍ぐらいですが、雇用先の環境、生活状況等の諸要素により多少の違いはあります。この場合はパトロンとの話し合いにより決定します。

歩合（分益）農 雇用から独立への過程の一環として歩合農方式（利益をパトロンと分け合うこと）があります。これは独立資金をつくるうえにも重要であり、また、自ら経営に当たる点で営農に対する真剣味も増し、より成長の機会となります。

歩合の条件は作目によっても異なり、また同じ作目であっても多少の違いがあります。この条件についてはパトロンと話し合いにより決めますが、この資料では、各作目の平均モデルとして作成してありますので一応の目安として下さい。

1.3ヶ月給与 月給賃金の者は、ブラジルの法合により1.3ヶ月給与（給与額1ヶ月分のボーナス）の支給があります。従って雇用期間中は、このボーナスを受ける立場にありますが、人夫等を使用する場合がありますと、1ヶ月分余計に支払わなければなりませんので、念頭に入れておいて下さい。

土地の面積 ブラジルの面積単位alq（アルケール）で表示しており、1alqは2.42ヘクタールです。

独立条件 この資料の独立時での収入・支出における各項目については、最少限度必要なものを計上し、金額については、平均標準額としました。従って地域・環境等により格差が生じます。

例 土地購入費の場合、電気の有・無、水利の便・不便、起伏の大・小等により、相当の差が生じます。

※ この資料の使用単価 この資料で使用している単価・金額は、1978年10月現在のものを使用し、末尾の移住者受入対策研究会のメンバーの方達のご協力をいただき作成しました。年間インフレ率が40～50%もあるブラジルですので、この点を充分考慮して下さい。当時の為替レートは1Us\$=174.90円=Cr\$1954でした。

事業団融資制度 事業団は、次のような農業融資を行っていますが、貸付金額並びに貸付期間については、資金需要、営農形態、営農規模等の諸要素を審査・勘案のうえ決定されます。

1) 貸付対象となる資金使途

(個人貸付) 個人貸付金の貸付対象となる資金の使途は次のとおりです。

(1) 設備資金及び長期運転資金

- ① 自営農として独立するために必要な土地の購入資金
- ② 営農拡張に必要な土地の購入資金
- ③ 土地の造成および開墾に必要な資金
- ④ 灌漑、排水施設資金
- ⑤ 道路造成資金
- ⑥ 永年作物の植付および管理資金
- ⑦ 家畜の購入および飼育資金
- ⑧ 農業用機械の機具購入資金
- ⑨ 農産加工施設資金
- ⑩ 交通運搬機具購入資金
- ⑪ 家屋、農舎、畜舎、車庫、修理場等の建設資金
- ⑫ その他営農に必要な設備資金および長期運転資金

(2) 短期運転資金

- ① 短期作物の植付、管理資金
- ② 作物の収穫資金
- ③ 生産物販売用資材の購入資金
- ④ 農業用機械機具及び交通運搬機具の補修資金

(団体貸付) 移住者の団体に対し貸付ける資金の使途は次のとおりです。

(1) 設備資金及び長期運転資金

- ① 法定の農業協同組合またはその連合体の定款に定められた事業に必要な設備資金及び長期運転資金。
- ② その他の農業団体の次の事業に必要な設備資金及び長期運転資金

- ア 農業牧畜業等の直営事業
- イ 出資者の生産物の精製，加工事業
- ウ 出資者の生産物の運送，保管，販売事業
- エ 出資者が必要とする諸資材，機械機具および日用品，食糧品等の生活物資購買事業
- オ 出資者の事業または生活に必要な共同利用施設の設置運営事業

(2) 短期運転資金

前記事業に必要な短期運転資金

(災害融資) 災害貸付の資金使途は次のとおりです。

- ① 耕地の整地ならびに灌漑，排水施設等の補修資金
- ② 種苗，農薬，肥料等の購入，その他作物の再植付管理に必要な資金
- ③ 家畜，飼料の購入に必要な資金
- ④ 家屋，農舎，畜舎ならびに農業用機械の補修資金
- ⑤ その他営農復旧に必要な資金

2) 融資申込者の資格

(個人貸付) 自営農(経済的に独立して農業を営むもの，借地農，分益農を含む)であって，未だ安定した農業経営の段階に達していないもの。

または，自営農として独立しようとしているもの。

(団体貸付) 農業を営む移住者により構成された法定の農業協同組合，その連合会，またはその他の農業団体。

(災害融資) 豪雨，降霜，降ひょう，洪水，低温，早魃ならびに病虫害等の天災，または動乱，暴動等の事変により直接的な営農上の被害を受けた移住者で営農復旧のため資金借入れが必要不可欠と認められるもの。

3) 融資限度額 各貸付種別について1貸付先に対する融資限度額を次のとおり定めています。しかし実際の融資にあたっては，営農の実態，担保・保証人関係，償還の見込等について十分審査し検討の上，この限度額の範囲内で決定されるもので一律に限度額いっぱい融資されるものではありません。

また，1件毎の融資限度額は原則として所要資金の80%以内とし，残りの20%は自己資金でまかなうこととなっています。

(1) 個人貸付金

- ① 長期貸付金

貸付対象となる資金の使途及びその組み合わせにより次のとおり最高限度額を定めております。

(単独貸付の場合)

- イ 土地購入資金(前記の資金使途の①及②) 500万円相当額
- ロ 農機具購入資金(前記の資金使途の⑧) 500万円相当額
- ハ 交通運搬機具購入資金(前記の資金使途の⑩) 500万円相当額
- ニ その他の設備資金及び運転資金(前記資金使途の③④⑤⑥⑦⑨⑪⑫) 300万円相当額

(組み合わせ貸付の場合)

- イ 土地購入資金+農機具又は交通運搬機具購入資金
(資金使途①または②) (⑧または⑩)
800万円相当額
- ロ 土地購入資金 + その他の設備及び運転資金
(資金使途①または②) (③④⑤⑥⑦⑨⑪⑫)
700万円相当額
- ハ 農機具購入資金+交通運搬機具購入資金 500万円相当額
(資金使途⑧) (⑩)
- ニ 農機具又は交通運搬機具購入資金+その他の設備運転資金
(資金使途⑧または⑩) (③④⑤⑥⑦⑨⑪⑫)
500万円相当額
- ホ その他設備運転資金のそれぞれの組み合わせ 300万円相当額
(資金使途③④⑤⑥⑦⑨⑪⑫)

② 短期貸付金

資金使途が単独でもまた組み合わせられた場合でも全体で30万円相当額。

(2) 団体貸付金

① 長期貸付金

その団体の出資者数に50万円相当額を乗じた金額、ただし、連合体については加盟したそれぞれの農業協同組合の出資者数に50万円相当額を乗じた金額。

② 短期貸付金

その団体の出資者数に30万円相当額を乗じた金額。ただし、連合体については、加盟したそれぞれの農業協同組合の出資者数に30万円相当額を乗じた金額。

ただし、一貸付先に対しては、①②を合わせて5,000万円相当

額を最高限度としています。

(8) 災害貸付金

1 貸付先に対して 30 万円相当額。

- 4) 融資通貨 移住先国の金融制度にもとづくほか借入者の償還能力等を考慮して国別に次の通貨建をとっています。
- ブラジル：クルゼイロ建
アルゼンティン：ペソ建
パラグアイ、ボリヴィア、ドミニカ：米ドル建
- 5) 融資期間及び返済方法 個人、団体、災害融資がそれぞれ長期及び短期貸付金に区分され、貸付期間の最長限度は次のとおりとなっています。これも貸付金額と同様、個人の営農形態、償還能力、担保・保証人等にもとづき、この範囲内で決定されるもので決して一律のものではありません。
- 短期貸付金 1年6ヶ月未満
長期貸付金 1年6ヶ月以上8年以内の割賦償還または一時償還とし、4年以内の据置期間（期間中利息のみ返済する）を設けることができます。
- 6) 利率 移住先国における一般金融情勢、貸付通貨、貸付利率水準、為替相場その他の事由を考慮し、国別に次のとおり定めています。
- ブラジル：年利 12%
アルゼンティン：# 19%
パラグアイ、ボリヴィア、ドミニカ：年利 5%
- 7) 担保 貸付にあたっては、借入者又は連帯保証人から次の中より適当な担保物件を提供していただくこととなっています。
- (1) 土地、建物、機械器具、設備その他適当な物件。
(2) 貸付けをうけた資金により取得する物件。
(3) 収穫物又は植付中の予想収穫物。
- 8) 保証人 個人貸付の場合は、原則として十分な保証能力をもっている個人（または法人）2名の連帯保証を必要としています。
- 借入者が法人（団体貸付）の場合には、役員全員及び出資者全員または一部の連帯保証でもよいこととなっています。
- また、任意組合等の法人格を有しない農業団体の場合は、受益出資者全員の連帯債務契約により保証に代えております。

農業青年移住者の考えられる独立例

形態 (作目)	所要年数		標準独立規模 (単位: 1万cr\$)				資金手当			備考			
	研修 歩合	共同 経営	経営規模	土地 面積	機械 資材	住宅 賃料	生計 人数	合計 収入	初年度 収益		2年度 収益	自己 資金	市 銀行
〔花卉〕				1a1q							(自己資金20)		
バラ(露地)	1	2	2万本 (苗は歩合中心用意)	2a1q 30	5.5	6.6	10.8	3人 3	13.7	29.8	11.9	39	6.5
電照菊(切花)	1	2-3	10棟, 年2回, 1棟 700ダース	40	27.5	10.5	10.8	2人 2.4	25.7	30.6	30.1	47	15
"(ポストラム)	1	2-3	3棟, 毎月2000鉢	40	15.1	5.4	10.8	2人 1.6	15.7	31.2	27.1	37	10
カーネーション	2	3	5棟, 1棟6,000本	30	15.5	13.1	10.8	2人 3.2	15.2	12.3	25.9	39	10
鉢物(ジクラン ユニフォームetc)	1	2	2棟, 年間15,000 鉢	40	9.5	8.7	10.8	2人 1.2	16.4	15.3	17.9	47	6
〔ジャガイモ〕	4		2a1q 2,000株 年2作	2a1q 借地 0.4	60.5	32.8	仮住宅 5.7	-	35	92	11.8	26	129
〔野菜〕	1	2	レタスと人参	1a1q 借地 1.0	12.5	8.5	5.7	3人 1.8	43	42	14.4	10	5
〔雑作〕													
コヒ	2		1a1q 4,000本 5a1q 植付	20 40	25	52	借家	36			16	(12) (32)	(25) (32)
大豆(小豆)	2	3→(8)	土地代貸負担 他はバトロン持ち	40 80	(50)		-	-	6.7		8	32	
〔牧畜〕	2		540頭(1a1q 2頭)	300 a1q									

* 自己資金には、研修期間中の繰越金、歩合収入、親元からの送金等を含む。

1 花 卉 — パ ラ



(1) 条 件

- 1年研修 2年目歩合 3年目独立
 - パラ露地栽培
 - 定植 2万本(定植5~6ヶ月後に出荷)
 - 苗木20,000本は研修中に用意する
 - 通い雇用人夫 3名
 - 土地 2 a1q
 - 1本から1年目3.5ダース 2年目5ダース, 1ダース平均Cr\$ 6.50とする
 - 市中銀行融資保証人はパトロン(雇用主)
- ☛ 苗木購入の場合
Cr\$ 300 × 20,000 本 = Cr\$ 60,000 が必要

(2) 独立時最少所要資金(初出荷の5ヶ月まで)

○ 土地代 2 alq	Cr\$ 300,000
○ 整地費用(トラクター借用, 1 alq 40時間 Cr\$ 300/時間)	12,000
○ 井戸掘さく1,000 lタンク 3ヶ据付	10,000
○ 電気引込工事	10,000
○ 機械・資材	
かん水装置(モーターポンプ ビニールホース etc)	30,000
消毒機材(動力噴霧機, ゴムホースetc)	20,000
小農具その他	5,000
○ 住宅・倉庫(6×12 m=72 m ² , 半分は倉庫に使用)	108,000
○ 営農資金	
肥料(基肥) 石灰 ⊙ 400×2トン=800	
配合肥料 ⊙ 3,000×2トン=6,000	
鶏フン ⊙ 500×4トン=2,000	8,800
肥料(追肥) 配合肥料 ⊙ 4,000×3回=	12,000
殺虫および消毒(週1回) 500 l ⊙ 400×20回=	8,000
燃料代 etc ⊙ 1,000×5ヶ月=	5,000
○ 人夫賃 ⊙ 2,000×3名×5ヶ月=	30,000
○ 生活費 ⊙ 3,000×5ヶ月=	15,000
	<hr/>
	計 Cr\$ 573,800

(3) 資金手当

自己資金(Cr\$ 52,572, 他は携行資金, 親元送金etc)	Cr\$ 118,800
事業団融資(利率 12%)	390,000
市中銀行融資(営農資金 利率15%)	65,000
	<hr/>
	計 Cr\$ 573,800

(4) 収 支 概 算

年 度	収 入	Cr\$	支 出	Cr\$	残 額	累 計	備 考
1 年目 (研修)	1,560×1.5倍×13ヶ月 (最低賃金の1.5倍1ヶ月のボーナス)	30,420	1,560×0.45×12ヶ月 生活費 45% 控除	8,424	21,996		
2 年目 (歩合)	Cr\$65×5万ダース×0.2 1万本管理 売上上の20%, 人夫賃自己負担	65,000	1,560×0.45×12ヶ月 人夫賃 1人2,000×13ヶ月	8,424 26,000	30,576	52,572	
3 年目 (独立)	<ul style="list-style-type: none"> ○繰越金 ○売上 35ダース×2万本×650 ○事業団土地融資 ○ / 一般 / ○市中銀行(官農融資) ○携行資金, 親元送金 etc 	52,000 455,000 240,000 150,000 65,000 65,000 合計 1027,000	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅・倉庫 ○官農資金 肥料(基肥) 8,800 ・ (追肥) ④4,000×7回 = 28,000 消毒④400×52回 = 20,800 燃料代④1,000×12ヶ月 = 12,000 ○人夫賃④2,000×3名×13ヶ月 ○生活費④3,000×12ヶ月 ○出荷経費(売上 20%) ○土地購入 2 a/q ○整 地 ○電気引込み工事 ○機械・資材 ○井戸掘さく 計 ○事業団融資利息 ○市中銀行返済(元本利息) 	108,800 69,600 28,000 20,800 12,000 78,000 36,000 91,000 300,000 10,000 10,000 55,000 10,000 767,600 46,800 74,750 合計 889,150	137,850		
4 年目	売上 5ダース×2万本×650	650,000	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷経費(売上 20%) ○官農資金 ○人夫賃 ○生活費 ○事業団融資利息 計 	130,000 60,800 78,000 36,000 46,800 351,600	298,400	436,250	

☆ 4年目に小型トラクター(TC-11 ヤンマー125馬力) Cr\$ 70,000, 運搬車兼用のワゴン車(フォクスワーゲン)中古 Cr\$ 50,000 を購入も可, また人夫増員により官農規模拡大も出来る。
 将来は品質向上, 災害防止(霜, ひょう etc)のため, ハウス建築も考慮されよう。

2 花 卉 — 電照菊（切花）



(1) 条 件

- 1年研修 2～3年目は歩合, 4年目に独立
- 土地 2 alq (電気あり)
- 通い雇用人夫 2名
- ビニールハウス 10棟
- 1棟から大輪, 700ダース, 1ダースCr\$ 55, 年2回出荷
- 親株はパトロン(雇用主)提供
- 市中銀行融資保証人はパトロン

(2) 独立時最少所要資金(初出荷の6ヶ月まで)

○ 土地代	2 alp	Cr\$ 400,000
○ 整地費用(トラクター借用, 1 alp 40時間 300/時間)		12,000
○ 井戸掘さく	1,000 L タンク3ヶ据付	10,000
○ 機械・資材		
かん水装置(モーター, ポンプ, ビニールホース etc)		30,000
消毒機材(動力噴霧機, ゴムホースetc)		20,000
小農具, その他		5,000
○ ビニールハウス	10棟(角材使用) 2万×10棟 =	200,000
○ 電照設備	1棟 2,000×10棟 =	20,000
○ 住宅・倉庫	(6×12m = 72㎡半分は倉庫に使用)	108,000
○ 営農資金		
農薬, 肥料etc売上の15%(電気燃料費等含)		57,750
ビニール張替え	⊙ 2,500×1回×10棟 =	25,000
○ 人夫賃	2名×2,000×6ヶ月 =	24,000
○ 生活費	⊙ 3,000×6ヶ月 =	18,000
		<hr/>
		計Cr\$ 929,750

(3) 資金手当

自己資金(Cr\$ 189,648, 他は携行資金, 親元送金etc)	Cr\$ 309,750
事業団融資(利率 12%)	470,000
市中銀行融資(営農資金 利率15%)	150,000
	<hr/>
	計Cr\$ 929,750

(4) 収 支 概 算

年 度	収 入	Cr\$	支 出	Cr\$	残 額	累 計	備 考
1 年目 (研 修)	1560×15倍×13ヶ月 (最低賃金の15倍,1ヶ月のボーナス)	30A20	1560×0.45×12ヶ月 生活費45%控除	8424	21996		
2 年目 (歩 合)	総売上の21%,10棟管理 菊の小輪,1棟から400束 1束Cr\$60,年2回 400×10×60×2×021	100800	生活費 1560×0.45×12ヶ月 人夫賃 2,000×1.5人×13ヶ月	8424 39000	53376	75372	
3 年目 (歩 合)	総売上の21%,10棟管理 菊の大輪,1棟から700ダース 1ダースCr\$55,年2回 10×700×55×2×021	161700	生活費 1560×0.45×12ヶ月 人夫賃 2,000×1.5人×13ヶ月	8424 39000	114276	189648	
4 年目 (独 立)	<ul style="list-style-type: none"> ○繰越金 189000 ○売上 10×700×55×2 770000 ○事業団土地融資 320000 ○ # 一般融資 150000 ○市中銀行融資(宮農資金) 150000 ○携行資金,親元送金 120000 	1699000	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷経費 売上(20%) 154000 ○土 地 2 a1q 400000 ○整地 トラクター借用@300×40h 12000 ○井戸掘さく,タンク設備 10000 ○機械・資材 55000 ○ビニールハウス 2万×10棟 200000 ○電照設備 1棟 2,000×10棟 20000 ○宮農資金 115500 農薬・肥料etc 売上の15% 50000 ビニール張替@2500×2回×10棟 52000 ○人夫賃 2名×2,000×13ヶ月 108000 ○住宅・倉庫 36000 ○生活費 @3,000×12ヶ月 計 1212500 事業団融資利息 56400 市中銀行融資返済(元本,利息) 172500 	1441400	257600		
5 年目	売上 10×700×55×2	770000	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷経費 売上20% 154000 ○宮農資金(ビニール張替含) 165500 ○人夫賃 52000 ○生活費 36000 ○事業団融資利息 56400 計 463900 	463900	306100	563700	

※ 5年目に小型トラクターCr\$70000,運搬車兼用のワゴン車(フェルプスワーゲンコンビ)中古Cr\$50,000を購入可,また人夫増員により宮農規模拡大も可能

3. 花 卉 — 電照菊 (ポットマム)



(1) 条 件

- 1年研修, 2~3年歩合, 4年目に独立
- 毎週400~500鉢出荷(初出荷まで4ヶ月)
- 通い雇用人夫 2名
- 土地 2 a/q (サンパウロ近郊, 出荷を考慮, 舗装道路に近く電気あり)
- 親木はパトロン(雇用主)が提供
- ビニールハウス 3棟
- 市中銀行融資保証人はパトロン

※ 土地は住宅を含めても $\frac{1}{2}$ a/qで充分であり, 市街または郊外の空地(2,000 m^2)を借地(借地料 1年約Cr\$ 2,000)も可能, ビニールハウスは取りはずし, 移動可能, また機械, 資材は中古(半価格)購入可

(2) 独立時最少所要資金(初出荷の4ヶ月まで)

◦ 土地代 2 alq トラクター	Cr\$ 400,000
◦ 整地費用(借用 1 alq 40時間 300/時間)	12,000
◦ 井戸掘さく 1,000 l タンク 3ヶ据付	10,000
◦ 機械・資材	
かん水装置(モーター, ポンプ, ビニールホースetc)	30,000
消毒機材(動力噴霧機, ゴムホースetc)	20,000
小農具 その他	5,000
◦ ビニールハウス 3棟(角材使用板ベンチ含)	90,000
◦ 電照設備 1棟 2,000 × 3 =	6,000
◦ 住宅・倉庫(6 × 12 m = 72 m ² 半分は倉庫に使用)	108,000
◦ 営農資金	
鉢 6,000 鉢 × Cr\$ 3 = 18,000	
土作り, 肥料, 農薬 6,000 鉢 × Cr\$ 1.70 = 10,200	
電気料他 ⊕ 1,000 × 4ヶ月 = 4,000	32,200
◦ 人夫賃 ⊕ 2,000 × 2人 × 4ヶ月 =	16,000
◦ 生活費 ⊕ 3,000 × 4ヶ月 =	12,000
	<hr/>
	計Cr\$ 741,200

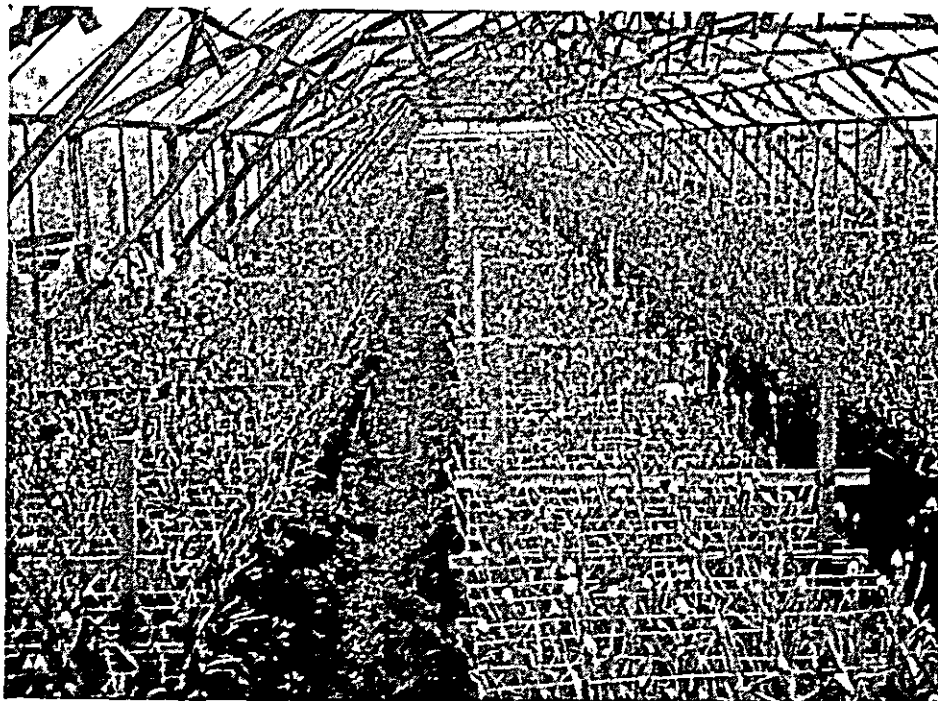
(3) 資金手当

自己資金(Cr\$ 194,268, 他は携行資金・親元送金etc)	Cr\$ 271,200
事業団融資(利率 12%)	370,000
市中銀行融資(営農資金 利率15%)	100,000
	<hr/>
	計Cr\$ 741,200

(4) 収 支 概 算

年 度	収 入	Cr\$	支 出	Cr\$	残 額	累 計	備 考
1 年目 (研 修)	1560×15倍×13ヶ月 (最低賃金の1.5倍, 1ヶ月のボーナス)	30420	1560×0.45×12ヶ月 生活費45%控除	8424	21996		
2 年目 (歩 合)	1560×2倍×13ヶ月 10万(売上)×0.03×12ヶ月 月々の売上の3%	40560 36000	1560×0.45×12ヶ月	8424	68136	90132	
3 年目 (歩 合)	1560×2倍×13ヶ月 20万(売上)×0.03×12ヶ月 月々の売上の3%	40560 72000	1560×0.45×12ヶ月	8424	104136	194268	
4 年目 (独 立)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市中銀行融資(宮農資金15%利子) 100000 ○ 売上2000円×Cr\$30×6ヶ月 480000 ○ 事業団土地融資 320000 ○ / 一般 / 150000 ○ 繰越金 194000 ○ 携行資金親元送金 etc 80000 	100000 480000 320000 150000 194000 80000	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出荷経費(売上20%) 96000 ○ 土地 2 a1q 400000 ○ 整地 @300×40h 12000 ○ 井戸掘さく, タンク設備 10000 ○ 機械・資材 55000 ○ ビニールハウス 3万×3 90000 ○ 電照設備 1棟2000 6000 ○ 宮農資金 130400 円22000円×Cr\$3 (66000) 土作り22000円×Cr\$0.20 (4400) 肥料22000円×Cr\$1 (22000) 農業22000円×Cr\$0.50 (11000) ビニール張替え年2回 (15000) 電気料他1000×12ヶ月 (12000) ○ 人夫賃 2名 52000 ○ 住宅・倉庫 108000 ○ 生活費 @3000×12ヶ月 36000 計 995400 ○ 事業団融資利息 56400 ○ 市中銀行融資(利息・元本) 115000 	96000 400000 12000 10000 55000 90000 6000 130400 (66000) (4400) (22000) (11000) (15000) (12000) 52000 108000 36000 995400 56400 115000			(75000) ×3棟 2500× 2回× 3棟 2000× 13ヶ月 ×2人
	合 計	1324000	合 計	1366800	157200		
5 年目	○ 売上 2000円×Cr\$30×12ヶ月	720000	<ul style="list-style-type: none"> 出荷経費(売上20%) 144000 宮農資金 139800 人夫賃 52000 生活費 36000 事業団融資利息 36000 	144000 139800 52000 36000 36000			
	計	720000	計	407800	312200	469400	

4. 花 卉 — カーネーション



(1) 条 件

- 2年研修 3年目歩合 4年目独立
- 土地 2 alq
- 通い雇用人夫 2名
- ビニールハウス 5棟, 1棟 6,000本
- 1本から1.5ダース, 1ダース Cr\$ 10とする
- 親株はパトロン(雇用主)提供
- 市中銀行融資保証人はパトロン

※ カーネーションはバラ, 菊, 観葉植物(鉢物)以上に栽培技術が必要とされ立枯病等もあってカーネーション専業農家は減少し現在約10農家と少ない。

このため, 市場では売手市場の傾向にあり価格の安定, 値上りも期待でき, 堅実な作目である。

(2) 独立時最少所要資金(初出荷まで8ヶ月)

◦ 土地代	2 a/q	Cr\$ 300,000
◦ 整地費用(トラクター借用, 1 a/q 40時間)	Cr\$ 300/時間	12,000
◦ 電気引込工事		10,000
◦ 井戸掘さく	1,000 l タンク3ヶ据付	10,000
◦ 機械・資材		
かん水装置(モーター・ポンプ, ビニールホースetc)		30,000
消毒機材(動力噴霧機, ゴムホースetc)		20,000
小農具 その他		5,000
◦ ビニールハウス	5棟(角材使用)1棟2万	100,000
◦ 住宅・倉庫	(6×12m=72m ² 半分は倉庫に使用)	108,000
◦ 営農資金		
肥料・農薬etc	売上の20%	90,000
燃料 その他	1,000×8ヶ月=	8,000
◦ 人夫賃	2名×2,000×8ヶ月=	32,000
◦ 生活費	3,000×8ヶ月=	24,000
		<hr/>
		計 Cr\$ 749,000

(3) 資金手当

自己資金(Cr\$ 106,208他は携行資金, 親元送金)	Cr\$ 259,000
事業団融資(利率 12%)	390,000
市中銀行融資(営農資金 利率15%)	100,000
	<hr/>
	計 Cr\$ 749,000

(4) 収支概算

年度	収 入	Cr\$	支 出	Cr\$	残 額	累 計	備 考
1年目 (研修)	1560×15倍×13ヶ月 (最低賃金の15倍 ^{1ヶ月} ボーナス)	30420	1560×0.45×12ヶ月 生活費 45%控除	8424	21996		
2年目 (研修)	1560×2倍×13ヶ月	40560	1,560×0.45×12ヶ月	8424	32136	54132	
3年目 (歩合)	総売上の25%歩合 1棟6000本5棟管理 1本から15ダース1ダースCr\$10 6,000×5×15×10×0.25	112500	生活費 1,560×0.45×12ヶ月 人夫賃 2,000×2名×13ヶ月	8424 52000	52076	106208	
4年目 (独立)	○売上 6000×15×10×5 ○事業団土地融資 ○ 一 般 〃 ○市中銀行融資(営業資金) ○繰越金 ○携行資金・親元送金 etc	450000 240000 150000 100000 106000 153000	○出荷経費(売上の20%) ○土地代 2 a/q ○整地費用 ○井戸掘さく ○機械・資材 ○ハウス 5棟 ○住宅・倉庫 ○営業資金(年2回ビニール 張替舎) ○人夫賃 2名×2,000×13ヶ月 ○生活費 3000×12ヶ月 ○電気引込工事	90000 300000 12000 10000 55000 100000 108000 102000 52000 36000 10000 計 875000 ○事業団融資利息 46800 ○市中銀行融資返済(元本利息) 115000	162200		
	合 計	1,199,000	合 計	1,036,800			
5年目	○売上 6,000×15×10×5	450,000	○出荷経費(売上の20%) ○営業資金 ○人夫賃 ○生活費 ○事業団融資利息	90,000 102,000 52,000 36,000 46,800 計 326,800	123,200	285,400	

5. 花 卉 — 鉢物（シクラメン、ペコニア等）



(1) 条 件

- 1年研修 2年目歩合 3年目に独立
- 土地 2 a/q（舗装道路近く）
- 雇用人夫（通い） 2名
- 年間にシクラメン5,000鉢
ペコニア10,000鉢を出荷
- シクラメン、ペコニアとも仮植まで育苗は歩合中に行なり
- 市中銀行融資保証人はパトロン（雇用主）

☆ 鉢物はサンパウロ市の都市化に伴ないこの6～7年間に需要が急速に伸びているが栽培が容易なため、栽培者が急増している。

ブラジルは適地のためか、かえって粗放で品質が良くない。今後は品種の選定、質の向上が問題となろう。シクラメン、ペコニアの他ツツジ、しだ類（サマンバイヤ）も人気があり最近庭園樹の需要も徐々に増えている。

(2) 独立時最小所要資金(ペコニア初出荷の3ヶ月まで)

◦ 土地 2 alq (出荷を考慮し舗装道路近く)	Cr\$400,000
◦ 整地費用(トラクター借用 1 alq 40時間 Cr\$300/時間)	12,000
◦ 電気引込設備	5,000
◦ 井戸掘さく 1,000 lタンク 3ヶ据付	10,000
◦ 機械・資材	
かん水装置(モーター, ポンプ, ビニールホース etc)	30,000
消毒機材(動力噴霧機, ゴムホース etc)	20,000
小農具 その他	5,000
◦ ビニールハウス 2棟(角材使用) 1棟2万	40,000
◦ 営農資金	
鉢代 Cr\$3,000×15,000鉢 =	45,000
種苗(シクラメン)	5,000
肥料・農薬 ⊕ 3,000×3ヶ月 =	9,000
電気・燃料 ⊕ 500×3ヶ月 =	1,500
60,500	
◦ 人夫賃 ⊕ 2,000×2名×3ヶ月 =	10,000
◦ 住宅・倉庫 (6×12m=72㎡半分は倉庫に使用)	108,000
◦ 生活費 ⊕ 3,000×3ヶ月 =	9,000
	<hr/>
	計 Cr\$709,500

(3) 資金手当

自己資金(Cr\$114,372他は携行資金, 親元送金)	Cr\$179,500
事業団融資(利率12%)	470,000
市中銀行融資(営農資金 利率15%)	60,000
	<hr/>
	計 Cr\$709,500

(4) 収支概算

年度	収 入	Cr\$	支 出	Cr\$	残 額	累 計	備考
1年目 (研修)	1560×15倍×13ヶ月 最低賃金の1.5倍,1ヶ月ボーナス	30420	1560×0.45×12ヶ月 生活費4.5%控除	8424	21,996		
2年目 (歩合)	総売上の10% 生産経費(人夫賃含)・パトロン負担 毎週ペコニア・シクラメン300鉢 (30+40)×300×4週×12月×0.1	100800	1560×0.45×12ヶ月	8424	92376	114372	
3年目 (独立)	<ul style="list-style-type: none"> ○繰越金 114000 ○売上 500000 <li style="padding-left: 20px;">シクラメン5,000鉢×Cr\$40 (200,000) <li style="padding-left: 20px;">ペコニア10,000鉢×Cr\$30 (300,000) ○事業団土地融資 320,000 ○ 一 般 150,000 ○市中銀行(営業資金融資) 60,000 ○携行資金,親元送金 66,000 	1210000	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷経費(売上の20%) 100,000 ○土地 2 a/q 400,000 ○整地 1 a/q トラクター併用 12,000 ○電気引込み設備 5,000 ○井戸掘さく,タンク設備 10,000 ○機械・資材 55,000 ○ビニールハウス 2棟 40,000 ○営業資金 <li style="padding-left: 20px;">貸代③300×15,000鉢 45,000 <li style="padding-left: 20px;">種苗(シクラメン) 5,000 <li style="padding-left: 20px;">肥料,農薬③3,000×12ヶ月 36,000 <li style="padding-left: 20px;">電気,燃料③500×12ヶ月 6,000 <li style="padding-left: 20px;">ビニール張替 年2回 ③2500×2×2 10,000 ○人夫賃 2名×Cr\$2,000×13ヶ月 52,000 ○住宅,倉庫 108,000 ○生活費 ③3,000×12ヶ月 36,000 <li style="text-align: right;">計 920,000 事業団融資利息 56,400 市中銀行融資返済(元本利息) 69,000 <li style="text-align: right;">合計 1,045,400 	164,600			
4年目	<ul style="list-style-type: none"> ○売上 500,000 <li style="padding-left: 20px;">シクラメン5,000鉢×Cr\$40 (200,000) <li style="padding-left: 20px;">ペコニア10,000鉢×30 (300,000) <li style="text-align: right;">計 500,000 	500,000	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷経費(売上20%) 100,000 ○営業資金(ビニール張替含) 102,000 ○人夫賃 52,000 ○生活費 36,000 ○事業団融資利息12% 56,400 <li style="text-align: right;">計 346,400 	153,600	318,200		

☆ 5年目に小型トラクター-Cr\$70,000, 運搬兼用のワゴン車(フェルクスワーゲンコンビ)中古Cr\$50,000を購入可。
また,人夫増員により営業規模拡大も可能。

6. ジャガイモ



(1) 条件

- 1～4年研修 5年目に借地独立
- 土地 2 alp 借地（連作が好ましくないため）
- 雇用人夫 特になし（収穫・出荷時に臨時雇用）
- 1 alq 1,000 俵 1 俵 Cr\$ 350 年2回作付
- 市中銀行融資 保証人はパトロン（雇用主）

- ※ 営農技術習得は一応2年間で習得可能であり、3年目に歩合も考えられるが、多額の経費（営農資金、機械・資材等）をパトロンが出資することになり営農不振の場合、損害が多すぎるため5年目ぐらいからの歩合が一般的である。この場合、歩合条件は機械・資材・土地（整地まで）営農（種イモ、肥料、農薬出荷経費 etc）、経費半をパトロンが負担し、歩合者は営農経費半、労賃を提供、売上総額を半とするのが普通。
- 7年目以降は自己資金も増えるので5～10 alq の土地を購入、そ菜、果樹を取り入れた近郊農業者として定着も考えられるが営農規模を拡大し、広面積の土地を購入、

比較的宮農が安定した雑作の大規模経営へ進む方向もある。

(2) 独立時最小所要資金

○ 土地借地料 2 alq 1 alq Cr\$ 2,000	Cr\$ 4,000
○ 整地費 Cr\$ 10,000×2 alq	20,000
○ 機械・資材	605,000
中型トラクター(61馬力, MF 265)	230,000
アタッチメント(ブラウ, ハロー, トレーラー etc)	50,000
かん水装置(中型ジーゼル, ポンプ, 送水管 etc)	300,000
消毒機械(中型ハッタ VS 500, 500ℓタンク付)	25,000
○ 宮農資金	308,000
種イモ @ 400×150箱×2 alq =	120,000
肥料 @ 2,900×10トン×2 alq =	58,000
農薬 @ 20,000×2 alq =	40,000
収穫経費(人夫, 袋, 選別, 運送)	
1袋(60Kg)当り Cr\$ 35×1,000袋×2 alq =	70,000
燃料代 etc @ 10,000×2 alq =	20,000
○ 住宅(仮住宅)倉庫も兼用(@ 800×6m×12m)	57,500
○ 生活費 @ 3,000×6ヶ月 =	18,000
	計 Cr\$ 1,012,600

(3) 資金手当

自己資金(繰越金)	Cr\$ 118,000
事業団融資(機械・資材購入, 利率 12%)	260,000
市中銀行融資(パトロン保証)	645,000
1) 機械・資材(1年据置 5年払い 利率 15%)	345,000
2) 宮農資金(据置なし 利率 15%)	300,000
	計 Cr\$ 1,668,000

(4) 収支概算

年度	収 入	Cr\$	支 出	Cr\$	残 額	累 計	備考
1年目 (研修)	1560×1.5倍×13ヶ月 (最低賃金1.5倍, 1ヶ月ボーナス)	30,420	1560×0.45×12ヶ月 (生活費45%控除)	8,424	21,996		
2年目 (研修)	1560×2倍×13ヶ月	40,560	1560×0.45×12ヶ月	8,424	32,136	54,132	
3年目 (研修)	1560×2倍×13ヶ月	40,560	1560×0.45×12ヶ月	8,424	32,136	86,268	
4年目 (研修)	1560×2倍×13ヶ月	40,560	1560×0.45×12ヶ月	8,424	32,136	118,404	
5年目 (借地 独立)	<ul style="list-style-type: none"> ○繰越金 ○売上 1,000俵×2a1q×Cr\$350×2作 ○事業団融資(機械・資材) ○市中銀行融資 1) 機械・資材(1年据置^{利率15%}, 5年払い) 2) 営農資金(据置なし15%) 	<ul style="list-style-type: none"> 118,000 1,400,000 260,000 345,000 300,000 	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷経費(売上16%) ○土地借料②2000×2a1q×2作 ○整地費②10000×2a1q×2作 ○機械・資材 ○営農資金②308,000×2作 ○住宅(仮小屋)倉庫兼用2回 ○生活費②3000×12ヶ月 計 ○事業団融資利息 ○市中銀行返済 機械資材(利息) 営農資金(元本利息) 	<ul style="list-style-type: none"> 224,000 8,000 40,000 605,000 616,000 115,200 36,000 1,644,200 31,200 51,750 345,000 2,072,150 			
	合 計	2,423,000	合 計	2,072,150	350,850		
6年目	<ul style="list-style-type: none"> ○繰越金 ○売上 1,000俵×4×350×2 ○市中銀行融資(営農資金) ※作付面積を2倍とした。 機械資材は拡張せずに可能 	<ul style="list-style-type: none"> 350,000 280,000 1,000,000 	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷経費(売上16%) ○土地借料②2000×4a1q×2作 ○整地費②10,000×4a1q×2作 ○営農資金②616,000×2作 ○住宅(仮小屋)倉庫兼用2回 ○生活費②3,000×12ヶ月 ○事業団融資利息 ○市中銀行融資 機械資材(元本と利息) 営農資金(元本と利息) 	<ul style="list-style-type: none"> 448,000 16,000 80,000 1,232,000 115,200 36,000 31,200 120,750 1,150,000 3,229,150 			
	合 計	4,150,000	合 計	3,229,150	920,850	920,850	

※ ジャガイモの場合、連作は好ましくないが、直作として労賃、肥料、農薬をほとんど投入せず、トウモロコシ(1a1q - 2000俵(1俵60kg) Cr\$ 150, 2a1qの場合 Cr\$ 60000の収益)の作付も可能であるが計上していない。

7. そ 菜 — レタスと人参



(1) 条 件

- 1年研修 2年目歩合 3年目借地独立
 - 土地 1 alq 借地
 - 1/2 alq レタス 480箱(大型木箱15~17ダース)
 - 1/2 alq 人 参 1,800箱(1箱約30Kg)
 - 出荷価格 レタス@Cr\$ 210, 人参@Cr\$ 100
 - 通い雇用人夫 3名
 - 市中銀行融資保証人はパトロン(雇用主)
- ☆ (1) 葉野菜であれば1/4ha(土地購入面積としては不可)でも生産単位になり、小規模でも独立の可能性がある。
- (2) 価格は1977年の青物市場出荷平均値としたが天候異変等の原因から入荷量の増減で激しく左右される。
- (3) レタスは通常11~3月, 人参は4~6月出荷が高値でもあるので, これに出荷

時期を集中したり選別、包装、出荷等の工夫も必要である。

(例えば、人参は葉付きの場合3ヶ月でも出荷可能)

(2) 独立時最小所要資金

◦ 土地借料 1 a1q		Cr\$ 10,000	
◦ 整地費(トラクター借用 Cr\$ 300/時間, 40時間)			
	石灰散布 Cr\$ 1,000 × 5トン)		17,000
◦ 機械・資材			
	小型トラクター(ヤンマーTC 11, 12.5馬力)	70,000	
	かん水装置(モーター, ポンプ, ビニールホース etc)	30,000	
	消毒機械(動力噴霧機, ゴムホース etc)	20,000	
	小農具 その他	5,000	125,000
◦ 営農資金			
(1) レタス			20,000
	種子 Cr\$ 1,100 × 0.7Kg =	770	
	配合肥料 2,700 × 2.5トン =	4,750	
	鶏ふん 800 × 10トン =	8,000	
	農薬(Manzete etc)	600	
	出荷経費(箱借用代・運賃 etc - 売上の6%)	6,000	
(2) 人参			48,300
	種子 Cr\$ 800 × 5Kg =	4,000	
	配合肥料 2,700 × 10トン =	27,000	
	農薬	6,500	
	出荷経費(箱借用代・運賃 etc - 売上の6%)	10,800	68,300
◦ 住宅(仮住宅)倉庫も兼用(◎ 800 × 6m × 12m)			57,600
◦ 生活費(出荷3ヶ月まで) ◎ 3,000 × 3ヶ月 =			9,000
◦ 人夫賃 ◎ 2,000 × 3名 × 3ヶ月 =			18,000
			<hr/>
			計 Cr\$ 304,900

(3) 資金手当

自己資金(繰越金)		Cr\$ 144,000	
事業団融資(機械購入 利率 12%)		100,000	
市中銀行融資(営農資金 利率 15%)		50,000	
			<hr/>
			計 Cr\$ 294,000

(4) 収 支 概 算

年 度	収 入	Cr\$	支 出	Cr\$	残 額	累 計	備 考
1 年目 (研 修)	1560×15倍×13ヶ月 最低賃金の1.5倍, 1ヶ月ボーナス	30,420	1560×0.45×12ヶ月 (生活費45%控除)	8,424	21,996		
2 年目 (歩 合)	○歩合 50% (土地, 機械類・パトロン持ち他 の生産出荷費は均負担) レタス, 人参とも均 alq 植付 ※平均総売上上の20%弱	208,800	1560×0.45×12ヶ月 人夫賃 2,000×13ヶ月×3名	8,424 78,000		122,376	144,372
3 年目 (借 地 独 立)	○繰 越 ○売 上 レタス ⊙210×480箱×5作 人 参 ⊙100×1800箱×2作 ○事業団融資(機械) ○市中銀行融資(営農資金)	144,000 864,000 (504,000) (360,000) 100,000 50,000	○出荷経費(売上上の16%) ○土地借料 1 alq ○整地(トラクター借用, 石灰散布) ○機械・資材 ○営農資金 レタス 20,000×5作=100,000 人 参 48,300×2作= 96,600 ○住宅(仮住宅)倉庫兼用 ○人夫賃 ⊙2,000×13ヶ月×3名 ○生活費 ⊙3,000×12ヶ月 計 ○事業団融資 ○市中銀行(元本利息)	138,240 10,000 17,000 125,000 196,600 57,500 78,000 36,000 658,440 12,000 57,500			
	合 計	1,158,000	合 計	727,940	430,060		
4 年目	○売 上 レタス ⊙210×480箱×5作 人 参 ⊙100×1800箱×3作 ※2年目であり人参は3作とした	1,044,000 (504,000) (540,000)	○出荷経費(売上上の16%) ○土地借料 ○整 地 ○営農資金 レタス 20,000×5作=100,000 人 参 48,300×3作=144,900 ○住宅(仮住宅)倉庫兼用 ○人夫賃 ⊙2,000×13ヶ月×3名 ○生活費 ⊙3,000×12ヶ月 ○事業団融資利息	167,040 10,000 17,000 244,900 57,500 78,000 36,000 12,000			
	計	1,044,000	計	622,540	421,460	851,520	

※ 自己資金が増え次第 5 alq 程度の土地を購入, 果樹等も取り入れ, 近郊農業者として定着をめざす。

8. セラード地帯 — コーヒー



(1) 条 件

研修期間2年 5万本程度植栽の日系農家において研修する
3年目独立 20 alq の土地購入
◎ Cr\$ 20,000 (整地済) × 20 alq = Cr\$ 400,000
(中間地帯の場合, 地方都市近傍, 住宅付で◎ Cr\$ 70,000 × 6 alq
= Cr\$ 420,000)
◎ Cr\$ 400,000 × 0.8 = Cr\$ 320,000 は事業団融資
20 alq の土地で当初5 alq のコーヒー園経営を目標とする。

(2) 植 付 費 用 1株2本とし, 4,000株/alqを植付ける。
4,000株 × 5 alq = 20,000株
1株当植付単価はブラジルコーヒー院はCr\$ 16としているが成績をあげるためには, その他にCr\$ 10を加え, 計1株Cr\$ 26とする(セラード地帯以外はCr\$ 2をプラス計Cr\$ 18)

$$\textcircled{\text{C}} \text{r\$ } 26 \times 20,000 \text{ 株} = \text{Cr\$ } 520,000$$

$$\left(\begin{array}{l} \text{Cr\$ } 16 \times 20,000 \text{ 株} = \text{Cr\$ } 320,000 \text{ は市中銀行融資を利用} \\ \text{(年利 7 \% 3 年据置 4 年払)} \\ \text{Cr\$ } 10 \times 20,000 \text{ 株} = \text{Cr\$ } 200,000 \text{ のうち Cr\$ } 120,000 \text{ は事業団} \\ \text{融資 Cr\$ } 80,000 \text{ は自己資金) } \end{array} \right)$$

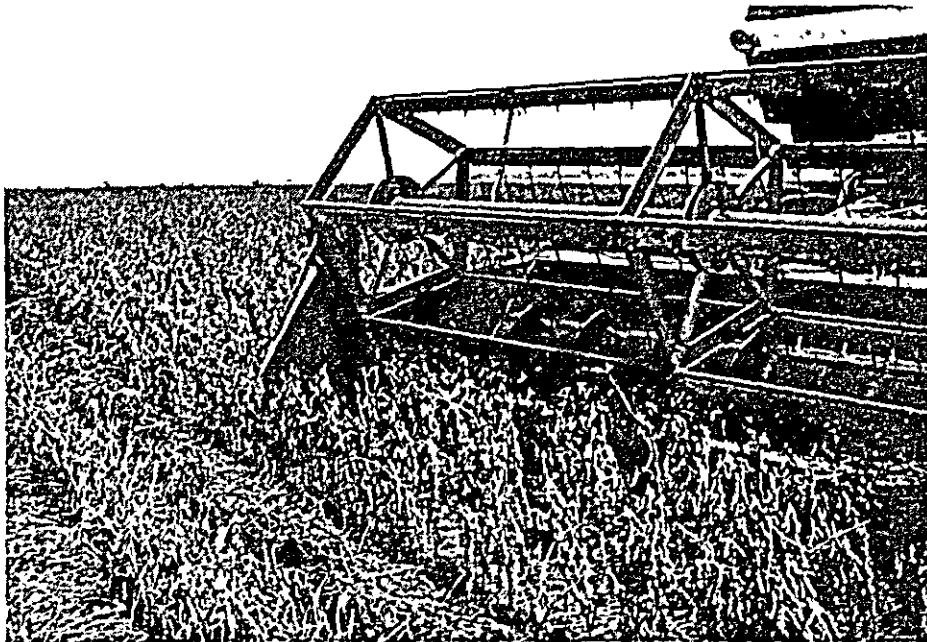
- (3) 間作 コーヒーは3年目から収穫に入るが、この間は間作(豆類、米、とうもろこし等)により管理費及び生活費を捻出する。
- 豆、米、とうもろこしを間作した場合5 alq でそれぞれ250 俵、350 俵、500 俵の収穫が期待でき、Cr\$80,000の純益となる(年間)
- 従って生活費 $\textcircled{\text{C}} \text{r\$ } 3,000 \times 12 \text{ ヶ月} = \text{Cr\$ } 36,000$ 及び除草、消毒 $\textcircled{\text{C}} \text{r\$ } 5,000 \times 5 \text{ alq} = \text{Cr\$ } 25,000$ 計Cr\$61,000を賄うことが可能となる。
- 間作は2年で中止する。

- (4) 収 穫 3年目は1,000株当50俵(1俵40kg皮付)
- 4年以降は1,000株当100俵とする。
- 価格は収穫費(含乾燥費)を除き1俵Cr\$750とする
- 収 入 3年目 $\textcircled{\text{C}} \text{r\$ } 750 \times 50 \text{ 俵} \times \frac{20,000 \text{ 株}}{1,000 \text{ 株}} = \text{Cr\$ } 750,000$
- 4年以降 $\textcircled{\text{C}} \text{r\$ } 750 \times 100 \text{ 俵} \times \frac{20,000 \text{ 株}}{1,000 \text{ 株}} = \text{Cr\$ } 1,500,000$
- 以上の如く天災さえ無ければ極めて多額の収益となる。4年目からは追肥だけで良いので純益は生活費を除いても60%以上の高率となる。

(5) 補 足 事 項

- コーヒーは牧畜、小麦等と共にブラジル政府の奨励作目であるため、有利な融資制度があり大いに活用すべきである。
- 当初は5 alqの経営としたが徐々に栽培面積を増やし最終的には17 alqを目標とする
- コーヒー単作は避け将来は養鶏、養豚と併営することが推肥補給の面からも望ましい
- 施設として乾燥場、約Cr\$30,000 機械としてトラクター(アタッチメント付)Cr\$180,000及び小農具等Cr\$40,000 計Cr\$250,000は市中銀行融資を利用する。
- セラード地帯の場合 近傍の都市に借家して通農が可能
- 独立時200万円程度の自己資金を調達することが望ましい。

9. セラード地帯雑作（大豆・小麦）



(1) 条 件

研修期間は2年、3年目より共同経営者となり、徐々に土地を増やしつゝ大型機械化農業者として独立する。

研修期間中に語学、技術、経営を身につけ、3年目にパトロンと折半で土地を購入し共同経営として自立する。土地は面積40 alq、価格@ Cr\$ 20,000（整地済）× 40 alq × 1/2 = Cr\$ 400,000で事業団の融資による。

出来る限り早期に現地市中銀行の有利な融資利用を計画するが土地担保が条件のため事業団融資は可及的速やかに（1年据置 2年払）返済する。

重機械の使用効率は40 alqが最少単位であることから土地は共同購入とする（但し地権は別）

富農経費は機械を含め、パトロンが立替え総売上より所要経費を差引いた利益を折半する方式である。

作目は大豆を表作・小麦を裏作とする。

富農経費は石灰、肥料、農薬、種子、人夫賃、燃料費等を含み大豆はCr\$ 11,000/alq

小麦はCr\$ 700/alqと見積る。収量はセラード地帯が3年目から本格的収穫に入ることを考慮し大豆、小麦とも初年度40俵(60Kg)/alq 2年度60俵/alq, 3年以降80俵/alqとした収穫費は1俵当りCr\$ 30を見込む。

8年目に50alqの土地を所有、自己資金約Cr\$ 940,000及び市中銀行融資を利用、重機械、施設を整備し完全独立する。

(2) セラード地帯雑作 独立計画

単位 Cr\$

年次	形態	大豆			小麦			農家所得	支出		余剰金	備考	
		営農経費	収益	收穫費差引	営農経費	収益	收穫費差引		生活費	返済金(含利息)			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
				①-②	③-④	⑤-⑥	⑦-⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
				①-②	③-④	⑤-⑥	⑦-⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
1	研修												
2	"												
3	共同 経営	11,000× 40a1q 440,000	280×40俵 ×40a1q 448,000	30×1,600 △40,000	700×40 28,000	250×40俵 ×40a1q 40,000	30×1,600 48,000	324,000	3,000×12 36,000	38,400	74,400	67,600	土地購入 20a1q
4	"	440,000	280×60俵 ×40a1q 672,000	30×2,400 72,000	28,000	250×60俵 ×40a1q 60,000	30×2,400 72,000	500,000	360,000	元本200,000 利息 38,400 238,400	274,400	55,600	繰越累計 123,200
5	"	440,000	280×80俵 ×40a1q 896,000	30×3,200 96,000	28,000	250×80俵 ×40a1q 80,000	30×3,200 96,000	676,000	360,000	元本120,000 利息 14,400 134,400	170,400	347,600	繰越累計 470,800
6	"	440,000	896,000	96,000	28,000	800,000	96,000	676,000	36,000	0	36,000	482,000	土地購入 30a1q 20,000×30= 600,000 繰越累計 352,800
7	"	11,000× 70a1q 770,000	280×40俵 ×30a1q 280×80俵 ×40a1q 1,232,000	30×4,400 132,000	700×70 49,000	250×40俵 ×30a1q 250×80俵 ×40a1q 1,100,000	30×4,400 132,000	919,000	36,000	0	36,000	588,500	繰越累計 941,300
8	独立												

当初の土地購入費 Cr\$ 400,000 のうち事業団融資は Cr\$ 320,000 他は自己資金

独立後は更に土地を買増しつつ短期作のみでなくコーヒー、果樹等を導入、経営の安定を図る。住居は近傍の都市に借家し通費。

1Q 牧 畜（南マツト・グロツソ州）



(1) 条 件

日系の牧場で当初2～3年間研修するこの期間に語学、経営を習得するがこの間における資金の蓄積は期待できない。しかし意欲をもって研修すれば2年間で支配人、管理人になることが可能であり給与を受給しつつ牛を増やせば、移住後8～9年で約300 alqの土地を所有し10年過ぎれば牧場主となりうる。

研修期間の最終年に牝成牛50頭を購入する@ Cr\$ 4,000、計20万クルセイロス≒200万円である。市中銀行の融資（年利15%）を受けることも可能であるが、出来れば自己資金（携行資金、親元送金）で賄うことが望ましい。

この50頭の牛はバトロンの牧場で1頭Cr\$ 15～20/月程度で預ってもらえる。（相場はCr\$ 40）支配人となると月額給与は最低Cr\$ 10,000（住宅無料提供）であり若干の小遣、食費及び預り料を差引いても年間15頭前後は新規購入が可能である。

土地を取得すれば市中銀行から牧場造成費の融資を受けられる。造成は開発から牧草蒔付牧柵まで1 alq Cr\$ 8,000が必要であるが融資の条件は整地費4年据置8年払で年利7%、その後の牧草・牧柵・人夫賃等は同じく4年据置、8年払いで年利10%と有利であり地権を担保にすれば容易に融資を受けられる。

1 alq 2頭飼育とし600頭の飼育を目標とする。

(2) 「牧畜」独立計画

年次	形態	所有頭数(単位頭)				収支計画(単位Cr\$)			備考		
		成牝牛	1才未滿	1才	2才	種牝牛計	収入	支出		備	
1	研修						牛預り料 ①15	生活費 ②3000/月	成牛購入費 ()頭数	雑費	
2	"	50				50	9000		200000	1000	預り料, 雑費は貸金より支出
3	支配人	50	30			80	14400	36000	(17) 68000	1600	牝15 牡2 購入
4	"	(50+15) 65	39	30		2 136	24480	36000	(14) 56000	3520	" 13 " 1 "
5	"	(65+13) 78	46	39	30	3 196	35280	36000	(17) 68000	4720	" 16 " 1 "
6	"	(78+30+16) 124	74	46	39	4 287	51660	36000	(13) 52000	4340	" 11 " 2 "
7	"	(124+39+11) 174	104	74	46	6 404	72720	36000	(7) 28000	7280	" 5 " 2 "
8	"	(174+46+5) 225	135	104	74	8 536	96480	36000	0	11520	土地購入 ④ 4,000×300a1q-1200,000 牛販売 成牛 ⑤ 5,500×200頭 1才 ⑥ 2,000×70頭
9	"	(225+74+195) 504	62	135	30	(8-5) 3	60120	36000	(10) 40000	7880	牝8, 牡2 購入 市中銀行融資により牧場造成
10	"	(504+30+8) 542	85	62	135	5 429	77220	36000	(5) 20000	10780	" 0, " 5 "
11	独立	(542+135) 677	106	85	62	10 540					

- 繁殖率は年60%
- 3才より配種する
- 牝30頭に牡1頭を標準
- 仔牛のうち牡は販売し、同頭数の牝を購入
- 預り料 Cr\$ 15 1 頭/月
- 収入 当初2年間は月額Cr\$ 10,000 以後月額Cr\$ 12,000
- 雑費は薬品, 注射等の費用
- 成牛の購入価格は牝, 牡ともCr\$ 4,000, 販売価格はCr\$ 5,500とした。
- 当初の50頭は自己資金による購入としたが, 市中銀行よりの融資を利用すると1年で利子を除き1頭Cr\$ 1,500の利益となる。従って70頭を1年肥育するとして2年を要し, それだけ独立時期が遅延する。

獨立計圖作成に係わった農業移住受入対策研究会名簿

(順不同・敬称略)

氏名	生年月日	出身地	現況	地区	連絡先	電話	備考
斉藤広志	1919. 1. 2	富崎 1934	サンパウロ大学教授	サンパウロ市内	Rua São Joaquim 381 サンパウロ人文科学研究所	278-5519	移民史料館長
宮尾進	1930.10.28	(ブラジル生れ)	「ブラジルの農業」編集長	サンパウロ市内	Rua Teodoro Sampaio, 2550 12 ^a - g/123	210-1415	
下坂東五郎	1910. 1.23	福島 1956. 5	雑作(コーヒー大豆・黄粉)	ミナス州 カルモ・ド・パラナイバ	Rua Deputado Porteira 182 Carmo do Paranaíba M.G	カルモ・ド・パラナイバ 1014	セラード開発
伊藤直	1913. 4.27	北海道 1937. 8	雑作(コーヒー他にアボカド・牧畜・養豚・植林)	パラナ州 カルモ・ポリス	Caixa Postal 4, Carlopolis Parana.	ジュゼイ トウ 71-2173	県人会役員
山口節男	1931. 1. 9	長野 1955.11	花卉(バラ・カーネーション・キク)	アチバイヤ	M/C Floricultura Atibaia Rua Aroaba 76. S.P	260-8941	コチア青年連絡協議会 会長
百合利夫	1936. 2.26	愛媛 1954. 6	ジャガイモ(他にトウモロコシ・リンゴ)	ソロカバ	M/C C.A.C (Dep. de Sorocaba)		リンゴ・生産団地(サンジニアキン)にも参加
荒木克弥	1937.10.24	山形 1961. 8	花卉(キク・鉢物・切花観葉植物)	アルジャー	Caixa Postal 17. Arujá	464-1412	企業的花卉経営
田辺明	1934. 8.26	静岡 1960. 7	採卵鶏・乳牛・果樹(ミカン)玉ネギ	タジイ	Caixa Postal 67. Tatui	0152 51-3164	ファゼンダ「SHIGE NO」代表者
片平雅充	1944. 2. 5	福島 1959. 6	野菜(トマト・レタス・人参・赤カブ他)	イビウナ	Caixa Postal 119. Ibituna		歩合農家を入れてそ菜の大量出荷

海外移住のご相談は……

国際協力事業団

〒160 東京都新宿区西新宿2-1 (新宿三井ビル内)

電話03 (346) 5 3 7 4

(1980.1.-5.000)